

パソコン画面で魚や鳥を飼育

“赤ちゃん”と
触れ合いたいも



喜ぶ

眠る

からかう



悲しい



怖がる

怒る

愛想を尽かす

からかう

「ニューロキッズ」
は、泣いたり、笑った
り9つの表情をつくる



「ニューロキッズ」と会話
する開発者の土佐尚子氏

(文中敬称略)

中津良平(四九) ATR知能映像
通信研究所社長は、「やがて
はコンピューターの中のベビー
が好き嫌いの判断をするよう
になる。どういうものをどうい
うに好きになっていくか。こ
の研究から、人の共通好み
がわかつてくれれば、デザインの
世界は大きく変わるでしょう」
と夢を語る。

藝術と工学を組み合わせた人
生物の研究をしている土佐尚
子(三四) ATR知能映像通信研
究所客員研究員は平成四年、
「ニューロキッズ」というコン
ピュータの中で生きる赤ちゃん
をつくった。人が話しかける
と、その声の抑揚を判断してコ
ンピューターグラフィックスで
描いた顔が喜怒哀樂四つのパタ
ーンの感情を表現してみせる。
「ペットではなく、生きてい
る人をつくりたかった。しかも
現在できるものは何かと考えた
ときに、赤ちゃんならできるか
もしれないと思ったのです」

三年前、CGの国際会議で展
示した。赤ん坊に話しかけた出
席者は、その反応に驚嘆した。
あの時、言葉や文化を超
えて、サイバースペース(電腦空
間)の住人が新しいコミュニケーション
の手段になると確信し
ました」

土佐は昨年十一月、手足をつけた体に「成長」した「ニュ
ロキッズ」を発表した。「ミッ
い、眠り、驚いたりもする。気

情と身なり、声により九種類の
感情を表現する。こちらが怒れ
ば泣き、優しく話しかければ笑
い、眠り、驚いたりもする。気

分がよければ口笛も吹く。
さらに、画面の前の人間の動
きをまねるようなこともするの
だ。ビデオアーティストでもあ
る土佐は、「双方向のコミュニ

ケーションが進歩すれば、観賞
者が映画の登場人物になり、ス
トーリーも自在に変幻するよう
な映画もできます。二十一世紀
初頭にはつくりたい」と話し